

2027年国際園芸博覧会

事業内容等修正届出書に関する補足資料

<補足資料内容>

- 10 景観調査地点の追加について
- 11 駐車場出入口の交通混雑に関する予測評価について
- 12 駐車場の収容台数の考え方について

令和5年6月

10 景観調査地点の追加について

ご意見の趣旨

景観の調査地点についてC区域に加えてもらいましたが、B区域にもう1点やはり加えるべきではないかと思えます。地点31と32の間に、もう1点追加をお願いしたいというのが私の意見です。

事業者の見解

前回の審査会でのご意見を踏まえ、B区域内に相沢川上流部の景観（囲繞景観を含む）を把握できる調査地点を1か所、追加選定しました。

なお、駐車場・バスターミナル等の設置検討エリアのうち、A区域及びB区域については、本博覧会協会としては、準備書において環境影響評価の対象事業実施区域から除外する方向で、横浜市との調整を進めています。

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。

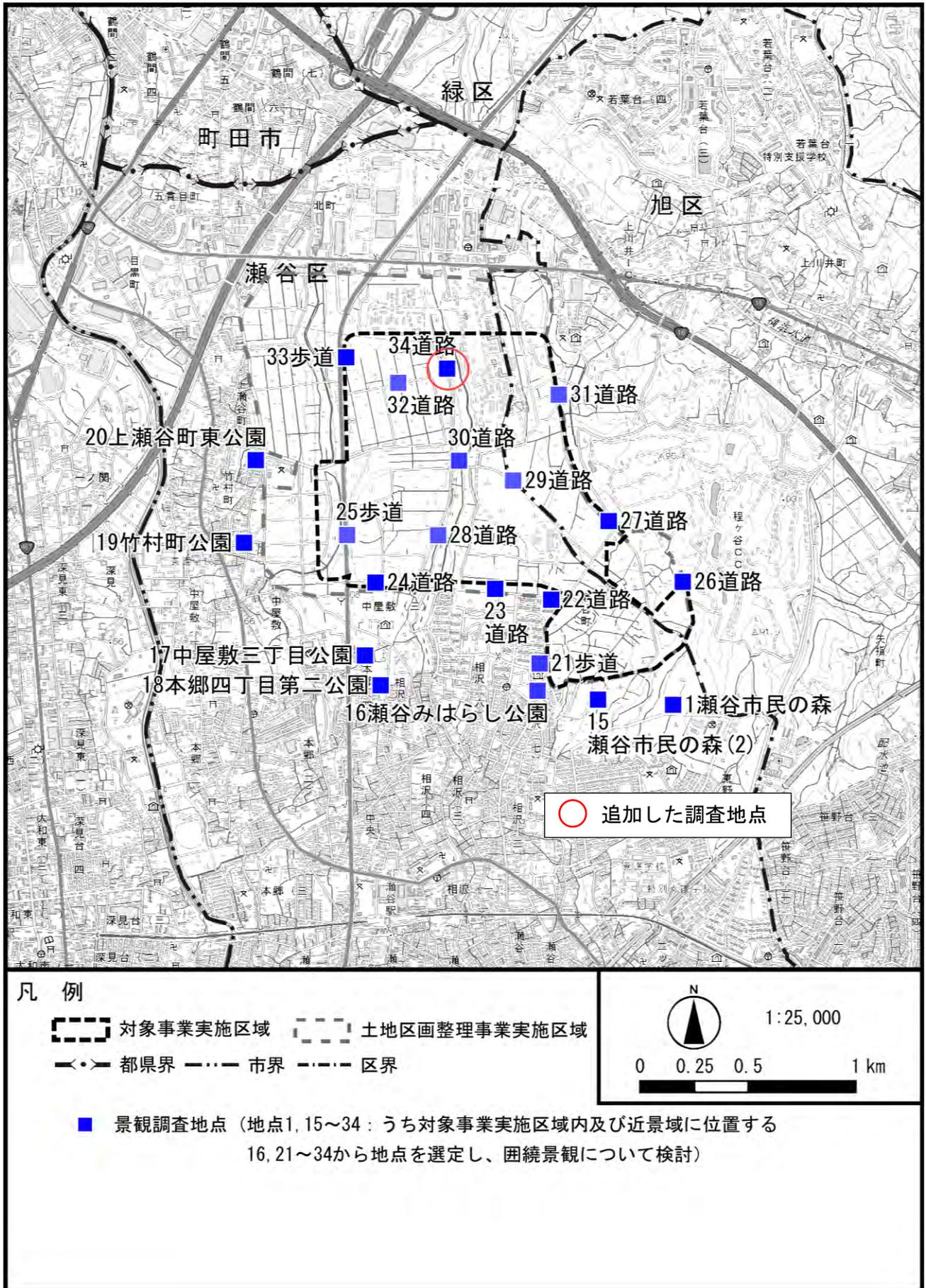


図 6.12-1(2) 景観現地調査地点

11 駐車場出入口の交通混雑に関する予測評価について

ご意見の趣旨

駐車場の入口、あるいはバスターミナルの入口がどこに設けられるのか現在示されていないのですが、これについても示していただく必要があるかなと思います。

駐車場出入口がどこに設けられ、そこでどのぐらいの交通流率が確保できるのか、といったことを過去のデータなどから設定し、それに基づく予測を行う必要があるかと思えます。

事業者の見解

本博覧会の会場隣接駐車場・バスターミナルにおける来場車両等の動線及び出入口などの詳細については、現在、関係機関等との調整を進めているところです。詳細については、準備書においてお示しすることになりますが、現時点での想定についてご提示します。

また、前回の審査会でのご意見を踏まえ、駐車場の出入口における滞留と周辺交通への影響についても予測評価を行うこととし、開催中における予測地点、予測方法を表6.11-2(1)及び図6.11-1のとおり修正します。

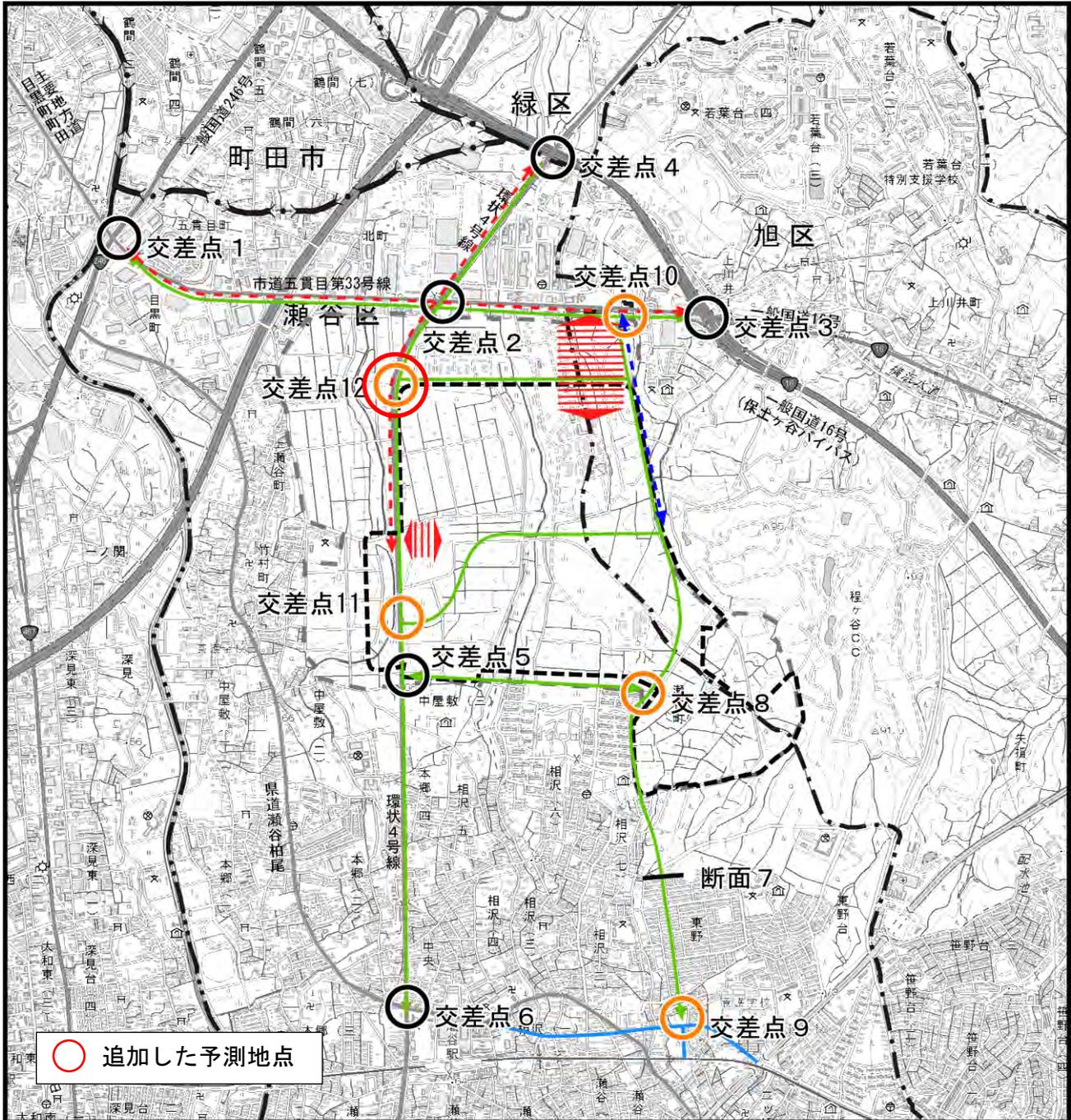
なお、車両の出入りについては、左折を基本とすることで関係機関等と調整するとともに、駐車場内に通路を一定区間設けて場内での車両の滞留を可能とするなど、周辺交通への影響をできるだけ軽減できるよう検討していきます。

表 6.11-2(1) 地域社会（交通混雑、歩行者の安全）に係る予測・評価手法

環境影響要因		予測の手法			
		予測項目	予測時期	予測地域・地点	予測方法
開催中	関係車両の走行	関係車両の走行に伴う交通混雑（自動車）の程度	開催期間の利用ピーク時とします。	関係車両の走行ルートとして想定される主要 <u>11</u> 交差点（交差点 1～6、8～ <u>12</u> ）、 <u>1</u> 断面（断面 7） <u>及び会場隣接駐車場・バスターミナルの出入口付近</u> とします。（図 6.11-1 参照）	交差点需要率の算出等により、交通混雑の程度を予測します。 <u>また、会場隣接駐車場・バスターミナルの出入口付近の滞留等による影響についても予測します。</u>

※修正届出書から修正した箇所は、赤文字・下線で示しています。

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。



凡例

 対象事業実施区域
 土地区画整理事業実施区域

都県界
 市界
 区界

← - - - → 工事用車両の走行ルート（工事中・撤去中）

← - - - → 工事用車両の走行ルート（撤去中）

← - - - → 関係車両走行ルート（開催中）

||||| 工事用車両の専用出入口（工事中）

— 整備計画中の道路

○ 調査・予測地点（自動車交通量、交通混雑、歩行者の安全）

○ 予測地点（自動車交通量、交通混雑、歩行者の安全）

— 調査・予測地点（自動車断面交通量）

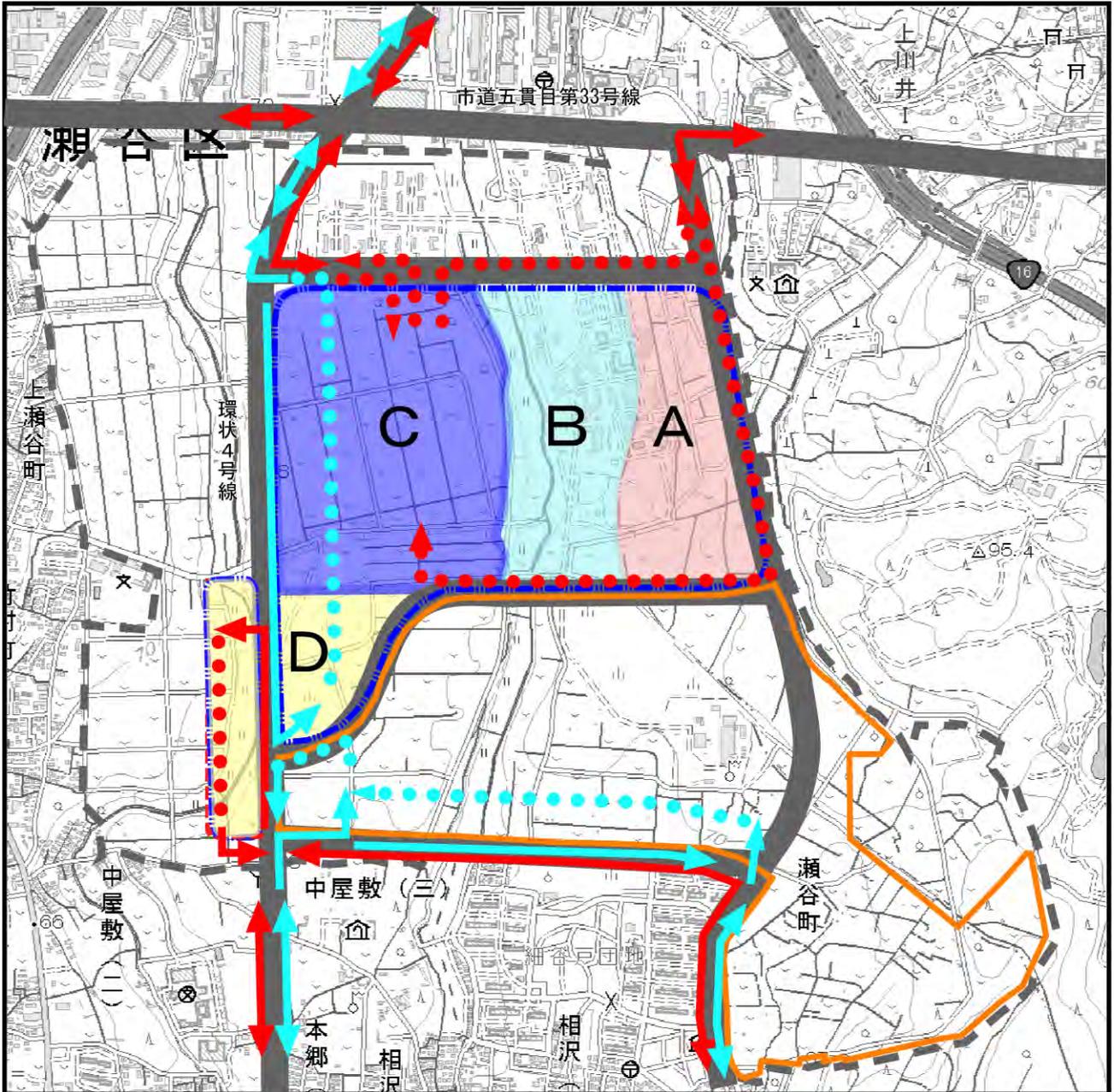


1:25,000

0 0.25 0.5 1 km

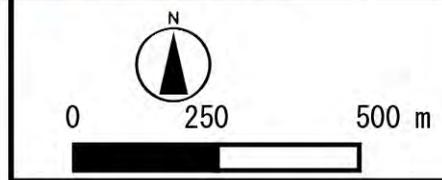
図 6.11-1 地域社会現地調査地点

この資料は、審査会用に作成したものです。審議の過程で変更される可能性があるため、取り扱いにご注意願います。



凡 例

-  会場区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  駐車場・バスターミナル等の設置検討エリア
-  自家用車の動線（公道）
-  自家用車の動線（会場、駐車場、バスターミナル等）
-  シャトルバスの動線（公道）
-  シャトルバスの動線（会場、駐車場、バスターミナル等）



注：現時点での想定であり、関係機関との調整により変更が生じる可能性があります。

会場隣接駐車場における来場車両等の動線及び出入口等のイメージ

12 駐車場の収容台数の考え方について

ご意見の趣旨

ピーク時に1日1万4000台来場すると、パークアンドライドを使いつつ会場に来る車は1万台を想定しているとのこと。2回転できるというような計算上、会場周辺の駐車台数は5000台が良いのではないかという話だと思いますが、まず回転率、2回転が確保できるかどうかというあたりを過去のデータなどに基づいて示す必要があると思います。

こういった大規模イベントで、多くの方は午前中に会場に来て、午後くらいまで過ごして帰ろうというようなことを考えるかと思うので、単に平均滞在時間で、例えば4時間だから、開いている時間8時間に対して2回転が確保できるというような計算はおそらく成り立たないと思います。

事業者の見解

開催期間中の多客日については、早朝や夕方以降など、時間延長を検討しており、10.5万人/日、10日程度（自家用車：約14,000台）においては、会場隣接駐車場に加え、パークアンドライドによる会場外駐車場を活用することで、本博覧会で必要となる自家用車等の駐車台数を確保したいと考えています。

会場隣接駐車場については、周辺の交通量などを踏まえ、適正な駐車台数となるよう、方法書で提示した約3,000台から、最大でも倍程度（自家用車：約5,000台）を目安としています。これまで日本で開催された3回の園芸博覧会（国際花と緑の博覧会、淡路花博及び浜名湖花博）での実績等（回転率：約1.4～2.3）を踏まえ、現時点で概ね2回転と想定しています。

残りはパークアンドライドによる会場外の駐車場を活用するとともに、過去の園芸博覧会の実績等を参考にしながら、駐車場を予約制にするなど運営方法等を工夫することで、対応していきたいと考えています。

なお、会場隣接駐車場の回転率については、過去の園芸博覧会における時間別の入退場者数の実績等*を参考に推計しています。

※ 過去の園芸博覧会の回転率

1日の総来場者数を滞在者が最大となる時間の人数で除したものの等から試算